

ひとはく 研究員 だより

サクラで有名なソメイヨシノやシダレザクラはエドヒガンから生まれた品種です。エドヒガンは日本に自生するサクラの一種で、寿命が長く巨樹になります。エドヒガンの巨樹・古木の多くは国や県などの天然記念物に指定されています。一例が兵庫県養父市のエドヒガン。国指定の天然記念物で、「樽見の大桜」と呼ばれています。

エドヒガンは本州、四国、九州の山地に分布しています。しかし、山中でエドヒガンに出合うことはめったにありません。珍しい植物で、兵庫県、千葉県、東京都では絶滅危惧種または準絶滅危惧種に指定されて

主任研究員 石田弘明さん

サクラの一種、エドヒガン

います。ところが、大阪府と兵庫県の府県境を流れる猪名川の上流域にはエドヒガンが数多く自生しています。数十本まとまって生育する群生地も複数見られます。うち4カ所は川西市の天然記念物に指定され、さまざまな団体・機関による保護活動が進められています。

なぜ猪名川上流域にはエドヒガンが多いのでしょうか。私はこの謎を解くための研究に取り組んでいます。完全な解明には至っていませんが、これまでの調査の結果から「超丹波帯」という地質の存在が深く関わっていることが分かってきました。超丹波帯由来の土壌は粘土質で



水分が比較的多いため、適湿地を好むエドヒガンが生育しやすいようです。

エドヒガンの群生地のいくつかはサクラの名所となっており、開花期



エドヒガンの群生地

花の色に豊かな個性

(3月下旬～4月上旬)には多くの人が花見を楽しんでいます。エドヒガンの遺伝子は個体ごとに異なるため、花の色には豊かな個性があり、群生地では薄ピンク色から紅色までのさまざまな花を見ることが出来ます。花が満開のときはまさに絶景。何度も見たくくなります。

しかし今、エドヒガンに大きな脅威が迫っています。それは特定外来生物に指定されているカミキリムシの一種、クビアカツヤカミキリです。この幼虫はサクラ類、ウメ、モモ、スモモといったバラ科の樹木の生木(材)を摂食し、樹木そのものを枯らしてしまいます。被害は拡大傾向にあり、2015年には大阪府と徳島県で被害が確認されました。猪名川上流域へも侵入しエドヒガンなどに被害を与える可能性があります。今後の動向を十分注視し、必要に際し適切かつ迅速な対応をとることが必要です。